

ここに注目！



個店の魅力アップと女性によるイメージアップ戦略

ポイント

「個店の繁盛とその継続」を真のにぎわいと捉え、バル・まちゼミといった事業を通じ消費者が個店を知る機会の創出に力を入れている。また女性有志によるイメージアップ戦略にも力を入れている。

【現状分析及び課題抽出】

Plan

旧態依然とした販売スタイルからの脱却

「住民意向調査」によると、特に比較的若い年代層ほど日用品・身の回り品や電化製品等で高山市を購入先としている人が多く、また交通の利便性の向上により名古屋・富山方面での購入も10人に3人強と高くなっている。しかしながら、商店街に人通りがないわけではなく金融機関も4行あり、平日の通行量も多いことから、もっと消費者が地元を意識を寄せてもらう工夫をすること、もっと個店が効果的なPRを行うことや旧態依然とした販売スタイルからの脱却が求められる。

【対応策の優位性】

Do

原点回帰 街の人が街の魅力を再発見

商店街が目指すべき本当の「にぎわい」は「通りに人が集まってにぎやかになること」ではなく、「お店に人が集まって繁盛すること。そしてそれが継続すること」である、という考えのもと、商売の原点に立ち返った個店の取組が必要である。そこで、①「ぐるっとほおバル in 古川」、②「得する街のゼミナール in 飛騨古川」、③「まち歩きマップ」のように、来街者がまちを回遊、個店に一步踏み入れ、店を知るきっかけになる仕組みを導入した事業を積極的に展開している。これらは商店主のモチベーションを高め、今以上に経営に前向きに取り組むきっかけとなっている。また、イメージによって動く消費者に、「観光」以外のまちのイメージを発信し、「楽しくて、いつどこへ訪ねても話が盛り上がる古川」の認知度の向上を目指している。

基本データ

古川町中心市街地商店街
所在地:岐阜県飛騨市古川町
人口:約3万人(飛騨市)
会員数:145名
店舗数:145店舗(買回品小売店20、最寄品小売店85、飲食店30、サービス店0、その他10)
商店街の類型:近隣型商店街
主な客層:主婦、会社員、高齢者
関連 URL: <http://www.furukawasci.net>

商店街概要

古川町中心部は高山市以北(旧吉城郡)の商業拠点として機能してきた。11の商店街で形成されていたが、店舗数が減少し、平成26年現在は7の商店街で形成されている。また、隣りの高山市への消費者流出が大きく、町外への消費の流出をどれだけ抑え、近隣からどれだけ消費誘客を行えるかがカギとなっていることを考えると、高山市方面からの消費誘客が重要になっている。



街を回遊する地元の人々

【効果の評価及び改善策】

Check-Action

いかにモチベーションを持続していくか

1か所集中型のイベントと比べ、持続して効果的なイベントとして「まちゼミ」や、「ぐるっとほおバル」への参加店が増加している。また、これらの事業は現在商工会内に実行委員会を設けることで行っている

が、商店主が自らのために自らが考え行動することが今までの活性化策から脱却する鍵になる。また、昨年のまちゼミでは4割が高山市内からの受講者となり、「下（しも）へは流れない」と言われた高山市からの新規顧客の創出に大きく寄与することができている。

[実施体制等]

商工会との連携から自らの取組へ

商工会内に実行委員会を設置することで、これら事業に伴っての個別の経営改善支援にも至り、一層の個店の資質向上にもつながっている。また、これらの取組は、まちの人自らが自分事として考え取り組む必要があることから、当初は商工会主体であった取組を、バルイベントは地元飲食店組合、まちゼミは商工会商業サービス業部会の主体的な取組による事業に移行させている。



街の魅力を再発見する企画いろいろ



キーパーソン

- 「しゃべりばち☆おとめの会」
 〈後列〉大洞 優子（左）
 向林 幸代（中）
 和田 さおり（右）
 〈前列〉下出 由美子（左）
 川端 尚子（中）
 福山 良子（右）

まずは家族を味方に

「古川なんていいところ何もなしおもしろくない」という声が若いひとを中心に聞こえてきました。でも昔からポイント会や商店街の人々がイベントを開催したりして一生懸命盛り上げてきていることも事実。商店街側と消費者側のギャップをまず埋めること・・・「いいところが何もないのではなく知らないだけ、知らせていないだけ」という視点でまず自分たちがもつ「この街大好き！」をもっと膨らませて発信する活動としてまち歩きマップを作成し発行する活動から始めました。

私たちはお金もないし「家や家業を陰で支える女房衆」として家にいるのが当たり前だった中、こうして活動を始めたことでもちろん家族からあまり好意的には見てもらえませんでした。そのような中で活動の趣旨や内容を「見える化」し、たくさんの方

に知っていただけるようになったことで今では家族も、まちの人も一目置いてくださるようになりました。

私たちが何かを変えるとか変えられるとかはおこがましい思いだと思いますが、味方になってくださる方が増えることでさらにその後の事業もそれに輪をかけて味方が増え「古川って元気やなー！」と喜んでいただけるようになりました。

既存の枠にとらわれず自ら動く

飛騨の最北端の商店街。モータリゼーションと近隣への大型店の出店、嗜好の変化等で来店数が減り思うような売り上げがつかれなくなりました。後継者不足、高齢化は当町も同じです。しかしこのまちで生業を成り立たせられるよう、誰もがこのまちに住んで良かったと思えるよう、後世に残せるまちづくりを考えていかねばなりません。そのためにも事業者自らがまちの事を自分事として考え、複数ある組織の壁を越えて手を取り合って同じ目標に向かって自ら動く、そんな風潮をつくっていかねばなりません。

「お店屋さんのおばちゃん」の活動を通じて、この街のひと・モノ・文化は大きな財産であると子供たちに伝えながら、街とひとと一緒に育っていきたいと考えています。